

今日は、誰もが迎える人生最期と墓の話です。

## 0.はじめに

### 某（親鸞）閉眼せば賀茂河にいられて魚に与うべし（改邪鈔）

この言葉は、オーディオブックで買った仏教の教えの中にあった。文学青年の18-9才の頃、吉川英治の『親鸞』の生涯と『歎異鈔』を読み一番、仏教らしい教えだなと思いました。それはキリスト教で言えば、教会の権威と維持に執着した中世のカトリックと、それに反発してドイツのルターの宗教革命によって誕生したプロテスタントにも似ています。親鸞は仏教界のルターなのかもしれません。親鸞聖人が言うに、私の遺骸は墓に祀らない、鴨川に流して魚の餌にしまえ。お墓はどうでもよい、仏教の教えで今を生きる事が大事とおっしゃった。日本の葬式仏教、大変な法事、お墓の維持は、故郷を離れた私にはできそうもない。両親の葬儀を終えると、次は私の番となる。

今日はそんなお墓の話をお社の同僚の身近な話も交えて書いてみます。きっとメンターはこの方面にも知識や考えがあると思います。龍海院で座禅と奉仕をしているので、私よりずっと仏教に詳しい。

## 1.累計日本人は5億人

ある計算によると西暦1年から現在までの累計人類は日本が5億人、世界が165億人という。産業革命、明治維新後の工業化、農業の近代化と大規模化により爆発的に人が増えたのは、ここ120年ぐらいの事である。この狭い日本に5億人の墓を作っていたら場所が無くなる。今の香港がそうで、日本式の墓地を作っていたら場所が無くなる。通常はロッカータイプの墓です。あの広い中国でさえも都市近郊に空き地がないので墓不足と言う。現在2017年の世界人口が76億人、2050年には98億人、2100年には112億人になる。死んだ人のための土地を用意するのもますます大変になりそう。

## 2.私の身近な風景

少子高齢化は技術革新と生活水準の向上と平均寿命が伸びると必然的に起こる社会生物学的現象です。昔は農家の人手確保や家内制手工業の労働集約型産業のために人手を必要としていた。今は知識集約とアイデアと技術の高学歴社会なので、多人数は必要ない。それよりも少数精鋭の天才集団が産業を引っ張る。100個のドングリより1個の栗がブレイクスルーする。

日本では、2015年頃に1.27億人がピークだった。会社の研究所も各県から来ている。見ると、もれなく長男長女だし、一人っ子も多い。社内では未婚率も高くなっている。当

社のようにグローバル化が進むと、日本で仕事ができるとは限らない。実際、多くの同僚が海外に散らばっている。地方から都市部への人口の流れは自然におき、故郷の墓の維持管理も負担になる。ネット墓参りもあるぐらいだが、それはちょっと味気ないな。

墓の改装も選択肢だが色々な家族・親戚事情をクリヤーしないとできない。墓をやめられない理由の1つが精神的、宗教的な気持ちである。ある人は墓参りして祖先の霊を慰める。それが信心深い模範の村民、町民のなんだろう。なかなか事務的に辞めますとは言えない。私個人で判断できない。地元にいる親戚縁者の了解を取り付けるのが精神苦勞である。江戸時代に領地から農民が逃げないために先祖の墓の祭りを受け継ぐ檀家制度ができたという。先祖の墓参りは悪い行為ではないが、霊はそこにはいません。「千の風になって」の歌詞にありました。

そうすると、管理者不在の無縁仏となってしまう。放棄状態となり寺も困る。長男が祖先の祭り事を継承するのも今のご時世では負担である。

### 3.お墓ファッション

散歩、運動で近代的な郊外の広い霊園公園に行く。典型的な合理的に造成した墓地霊園だ。自転車で遊びに行ける距離に辻堂の大庭霊園、横浜戸塚霊園と鎌倉霊園がある。実に色々な墓のスタイルがあり、見るだけでも楽しい。その中からいくつか紹介する。

#### スタイル1：骨を受け取らない

そんな人がいる時代なのか！ 最初に聞いた時は驚いた。身元不明者や孤独死や遠い親戚なら市役所が骨の管理をしてくれるのがありがたい。

#### スタイル2：骨壺は素焼きにかぎる

瀬戸物は水蒸気、水が浸透しないので墓の中の結露で水浸しになる。素焼きなら水が溜まらない。大きさはなるべく小さくすると墓に沢山入って都合が良い。今はアマゾンで骨壺も自分選び、直葬すればお寺を通さずに家族葬ができてしまう。骨壺の蓋に死亡日と名前が書いてあると後日改装する時に書類作りが簡単だが、除籍しているのでたいていは無記名だろう(写真1,2)。



写真1 アマゾンの骨壺ランキング



写真2 墓石の下で起きていること

### スタイル3：和風の墓地

細長い石に「増田家先祖代々」と書き、没年月日と年齢と戒名と俗名を別の平たい石に刻む。隣の墓と隙間なくぎっしり建っている(写真3,4)。狭い通路、人がすれ違うこともできない。静岡の檀家をやめて、改装し墓を壊す時に重機が入らないので人力で墓を撤去した。隣の墓と敷居の石が共用なので撤去がやっかいだ。撤去した石は砕いて砂利石としてどこかの道路になっているという。悪質な所は産業廃棄物として墓石を谷底に廃棄して社会問題になっていた。

石質は伝統的に黒御影石が最上級である。安いのは大谷石で柔らかいので風化して文字が崩れる。日本お墓は陰気臭く、幽霊が出るメッカである。日本は花崗岩はとれるが、大理石はとれない。もっとも大理石はサンゴの死骸で化学成分が炭酸カルシウムなので酸性雨で炭酸とカルシウムに分解して溶けて砕けてしまうので屋外には向かない。室内の廊下やトイレの内装材料にある。



写真3 改装前の静岡市の増田家の墓



写真4 鎌倉の磯部家の墓

### スタイル3：洋風な墓

最近の霊園にみられる芝生の上に同じ大きさ、色がそろった高さ1m、幅1.5mぐらいのピンク、茶の花崗岩が整然と並ぶ。流石に、米国のアーリントン国立墓地のように十字架



写真5 藤沢市大庭霊園



写真6 鎌倉霊園

が整然と並ぶ風景は日本にはない。アメリカのような多民族、多宗教国家はお墓の形にも気を使うところだ(写真5,6)。

#### スタイル4：個性的な自己主張モニュメント

これは芸術なのか？誇示なのか？墓石に「平和」、「愛」、自作俳句、更には銅像まである。見ていて楽しい。人となりか忍ばれる。作る費用はピンきりだろうと。自分はいいけど、こんな立派な墓を残された家族はたいへん(写真7,8)。



写真7 鎌倉霊園のある立派な墓地、銅像



写真8 八木アンテナ発明者の博士の墓地

#### スタイル5：散骨で自然に帰る

同僚が親戚の依頼で亡くなった夫婦の骨を沖縄に散骨した話を聞いた。骨壺は寺に保管してもらい、業者に申し込んで、骨を粉末にして、娘さんと沖縄旅行とセットで行った。散骨も自然に帰る方法として魅力的ですが、信頼できる業者を見つけると遺骨も産業廃棄物になってしまう。

#### スタイル5：共同納骨堂で安上がり

私の両親の骨も先祖と同じ静岡市営の納骨堂に入れた。次は私とK子である。夫婦で入る納骨堂を探してみた。藤沢市民病院のそばの寺にロッカー式の納骨堂がある。宗派問わず、2人+ペット1匹まで収納できる80万円のロッカー式である(写真9)。毎年、1回合同供養のお経がある。33年たったら、寺の共同墓地に散骨してロッカーの使用期間は終了する。ま、33年後はこの寺があるかもあやしいし、骨になった後の心配なんか意味ない。焼いた骨なんてリン酸カルシウムの残骸です。探せば、樹木葬35万円もある。納骨堂の1つの変種として樹木葬はここ神奈川ではかなり人気があると聞く(写真10)。

### 4.イタリアの風景

これはイタリア在住の姉から送ってきた写真です。ピクニックができそうな明るい景色です。姉が言うに、土葬に立ち会った時に、葬儀がすごく速く終わってビックリ。棺桶を



写真9 藤沢妙善寺のロッカータイプ



写真10 藤沢のあるお寺の樹木葬

埋めるだけと言っていた。火葬の間の食事時間が無い。今は土葬と火葬が選べるそうですが、価格は土葬の方が断然高いそうです。土地の確保が大変ですから。土葬の場合は50年経過しないと同一場所が使えない。



写真11 イタリア土葬の墓



写真12 イタリア火葬の墓

## 5.結論

このように宗教と立地によって葬儀の方法にバリエーションがあります。西年ですが、チベットの鳥葬は希望しません。姉、両親は洗礼を受けたクリスチャンなのでそのスタイルになったが、私はエセクリスチャンなので自由です。今日はここまで。Fさんのところはどうかさるのでしょうか？あの海龍院なら交通の便もよくきれいなところですよ。

## ●今月の読書

ブルーバックシリーズの『科学者はなぜ神を信じるのか コペルニクスからホーキングまで (ブルーバック) 新書 - 2018/6/20

科学者の私にとって、勉強になった。教会とガリレオとの戦い、そこには信念というより、ガリレオ自身が家計を支えるために大学を首になると困るから。個人の生活がかかっているのだから、あっけなく教会の圧力に屈するシーンもあります。人類、神に近づくために宇宙と素粒子科学が発展しました。中世のヨーロッパの有名な科学者はたいていカトリック信者でした。



## ●今月の写真

台風15号の被害。2019年9月9日朝5時に千葉市に上陸した台風15号は大きな被害を出した。藤沢の新林公園（ボランティアしている里山）も沢山の木が倒れ、小枝が道に散乱している。これを復旧するには2ヶ月はかかるだろう。田舎で山なんか相続していたら大変な事になっていた。F邸はどんな状況でしたか？



台風15号で折れた杉の木（藤沢市新林公園）

## ●無人の実家の草取り

今月もありがとうございます。先週、無人の静岡の実家の草取りに行きました。もう草取り以外静岡へ行く用事もなくなりました。 おわり